

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生が定期的に研究成果を紀要等に公表しているか否かを検証する	→学生1名あたりの業績年間アウトプット数	A	A	A	A	A
2. 学位審査で公開方式のプレゼンテーションを行う	→公開プレゼンテーションの開催率と参加者数	D	A	A	A	A
3. 就学の基礎となる年限での博士学位の取得者割合	→就学3年次終了時における博士学位取得者の割合	D	B	C	A	A

☆

  

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 経営戦略研究会発行の『経営戦略研究』、『ビジネス&アカウンティングレビュー』(査読付)のほか、学会誌に本課程の学生が積極的に投稿し、採択されている。2年次に行われる総合学力認定試験には、受験資格として論文1件、博士学位申請には論文2件が課されていることもあり、学生の論文投稿は積極的である。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の『ビジネス&アカウンティングレビュー』(査読付)には3名の学生が掲載された。必ずしも全学生が毎年論文を刊行できているわけではないが、査読付の紀要や学会誌にも積極的に投稿している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学位審査の要件に論文の刊行を課することがインセンティブになっていると考えるが、今後も研究科で発行している紀要については、学生への周知を行い、投稿を促す。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 博士学位審査において、2時間程度の口頭試問を公開方式で行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 口頭試問は必ず公開方式行うため、開催率は100%である。また、主査・副査に加えて、その他教員や博士課程の学生が出席した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も公開方式で口頭試問を行い、学内他研究科にも口頭試問の開催を周知して参加を募る。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 完成年次を迎えてから3年が経ち、8名の学位授与者のうち、4名が3年次終了時での学位授与であった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 社会人学生が含まれていることを考えれば、この期間での博士号は特筆すべきことと考えられる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 多忙な社会人学生にとっては困難であるが、可能な限り3年で博士号が取れるよう、学生の論文執筆を指導する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	